

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900791		
法人名	有限会社 西日本在宅介護センター		
事業所名	グループホーム 見立		
所在地	〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田3251番地	Tel 0947-42-8817	
自己評価作成日	令和03年12月02日	評価結果確定日	令和04年01月07日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和03年12月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関先にはいつも花があります。また、夜勤二人体制なので利用者の方は不安なく過ごされています。家族の方にも安心していただければ心掛けています。医療に対しても看護師が勤務している為主治医との連携もとれ医療的な相談にも対応して安心して頂いております。職員は、20代から70代と幅広く家庭的な職場でいつも笑い声が絶えません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「見立」は、郊外の住宅地の中で地域密着型事業所として19年前に開設した、定員9名の民家改造型のグループホームである。経験の長い職員が多く在籍し、利用者と家族のような関係を築き、互いに補い合っけきめ細かなチーム介護に取り組んでいる。ホーム看護師が、家族と協力してかかりつけ医の受診に取り組み、ホーム協力医による往診体制の充実で24時間安心の医療体制が整い、利用者や家族の要望に応じて看取りも行っている。中庭の畑では、土いじりを好む利用者と職員がトマトや胡瓜、茄子等、季節の野菜を育て、収穫された野菜を使って職員が作る美味しい料理は、利用者の一番の楽しみであり、職員の行き届いた接遇、声掛けにより利用者が笑顔を取り戻し、見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係が築かれているグループホーム「見立」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【利用者様の認知症の進行を緩和し、利用者様がそれぞれの役割を持って家庭的な環境のもと安心して日常生活を送れるよう心身の特性を踏まえて支援する事を心がけております】と運営理念をあげている。ミーティングで理念について学ぶ機会を持っている。理念は玄関に利用者・家族にも明瞭に掲示している。	ホーム独自の介護理念を見やすい場所に掲示し、職員は理念の意義や目的を理解し、利用者が家庭的な環境の中で安心して日常生活が送れるように取り組んでいる。経験年数の長い職員による優しい声掛けと寄り添う支援が、利用者の穏やかな暮らしに繋がっている。	申し送り時に理念を唱和する等して理念の共有を図り、実践に繋げていく事が望まれる。また、職員一人ひとりが月の目標、個人の目標を定め、具体的な取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神幸祭など獅子舞の訪問や、同一法人のデイサービスとの交流と老人会にも参加している。・・・でしたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為現在は中止している。	コロナ対策以前は、地域との繋がりが深く、神幸祭や獅子舞の訪問等、地域の方からの声がかかりで実現している。近隣の同一法人のデイサービスの行事に参加して、老人会との交流が行われていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	コロナ収束後には、運営推進会議に参加の地域代表の協力を得て、地域の情報を把握して、行事や活動に参加する等、地域の一員としての交流を広げていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為、実践を通じて地域の人々に向けて活かす事が困難。情報収集に心がける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為意見交換などは電話にて対応しているので話し合いが厳しい。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、利用者の状況や行事について報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受けて話し合い、サービスの向上に反映させている。また、会議がマンネリ化しないように、新しい議題や内容を検討し、参加委員の増員に向けた取り組みを行っていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービス提供や留意点について、市の担当者に連絡取り指導を伺っている。	管理者は、介護の疑問点や困難事例について行政担当窓口にご相談し、事故や空き状況を報告し、連携が図られている。運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情や取り組みを伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊される入居者がいるため玄関は施錠している。玄関は車通りがあり、家族や職員と話し合い、入居者の安全を図る為必要時施錠を行っている。中庭には自由に出入り可能。	身体拘束の職員研修を、内部勉強会の中で実施し、ベッド柵の設置や言葉の抑制について等、具体的な事例を挙げて話し合う等、職員間の正しい理解に努めている。また、運営推進会議の中で、身体拘束適正化委員会の取り組みを報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待防止を常に心がけ勉強会にも課題にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援していく。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設け、職員間で理解出来るように取り組んでいる。利用者や家族から相談があればその都度対応し、制度を利用するための申請の手続きや、関係機関に橋渡し出来る体制を整えている。現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者と家族の不安や疑問点を尋ね、それに対して十分な説明を行い理解・納得をは図る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望を管理者や職員が受け入れ、ホームの運営に反映させるよう努力している。	日常の関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を聴き取っている。家族の面会時に、職員がコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望、苦情等を聴き取っている。面会が難しい家族には、電話連絡の中で要望を聴いている。	行事を兼ねて家族が集い、交流する機会(家族交流会)を設けたり、ホーム便りを作成し、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝える等、より深い信頼関係を築くための取り組みを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時に、職員の意見や提案など聞き実行し、結果が悪ければ再度お話し入居者の事を考え職員同士意見交換する。	一日4回職員間で申し送りを行い、職員の意見や要望、心配な事等を話し合い、メモ書きを見える所に貼る等して、情報の共有と意見交換に努めている。夜勤者2名体制で、夜間帯に余裕が出来るので、夜勤者が日勤帯の仕事を手伝う形で協力しようとの提案や要望を受けて管理者が集約出来る事から、ホーム運営や業務に反映出来るよう取り組んでいる。	職員が多く集まることのできる日時を工夫し、定期的に職員会議を開催して、法人本部の決定事項を伝えたり、職員間で意見交換する機会の確保が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き希望通りに近い条件に向けて整備できるよう努める。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	能力あれば年齢制限なし。勉強会など希望があれば優先させる。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、働く意欲と健康であれば採用している。職員が向上心を持って働けるように、外部研修受講や資格取得のための支援体制を整えている。家庭と仕事を両立出来るよう、勤務形態を多様化したり、急な休みが取りやすい職場環境を整えている為、職員が定着している	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権を尊重する事は職員全員で心がけている。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活環境を把握し、言葉遣いや対応に注意し、馴れ合いにならないように、気づいたらその都度注意し合っている。職員は常に自分に置き換えて考えながら、利用者の人権を守る介護サービスに取り組んでいる	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員内外研修を受けさせる。また力量を把握し、働きながらトレーニングを実施。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流を持ち、サービスの質を向上させていく取組をしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション作りに努力しまた入居者の人材を把握し何を望んでいるか掴み取る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で家族が困っている事や不安な事に対し耳を傾けながら関係づくりに努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者に対してのサービスがどの程度まで必要性があるか見極め、家族と話し合うように努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は協力していただき、日常生活の中で共有できる事を探し、少しでも満足していただきたい。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場に置かず、入居者と家族の絆を大切にしながら支援・連携を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染の方や場所などの把握をし、一緒に共有できるよう努力する。	コロナ対策以前は、利用者の友人、知人の面会が多く、ゆっくり寛げる場所やお茶等を提供し、訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。法人内のデイサービスから入居の利用者も数名いる事から、デイサービスとの交流も心掛け、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤独せずに関わり合いが出来るよう支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大事にしながら、退去ごも必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も入居者の要望を聞き、実行出来る事はさせて頂く。無理難題の時は家族に相談したり、時間をかけて話し合うよう努めている。	ホームの生活の中から、職員は利用者の思いや意向の把握に努め、家族と相談し、思いの実現に向けて支援している。意向表出が難しい利用者には、家族やベテラン職員から情報を収集して話し合い、職員が寄り添いながら、利用者の表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、生活環境を把握にてサービス提供できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後・夕方と申し送りを実施。一人ひとりの状況を把握できるように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員の意見と家族の電話なので入居者とそれぞれの意見・要望を話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、申し送り時に職員が意見、気づきを出し合って計画作成担当者に伝え、介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族に密に連絡し、主治医の意見を聴きながら、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りを利用し、情報共有して実践や介護計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて柔軟な支援に取り組む努力をしている。特に、家族の要望などは支援サービス提供に取り組む。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の入居者は友達と食事会にいかれていたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医にお往診依頼している。その為事業所看護師と医師との連携がとれ家族の連絡もスムーズにとれている。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。入居前からのかかりつけ医の受診や往診、ホームの協力医による定期的な往診と夜間、緊急時の対応、看護職員と介護職員の連携により、24時間安心の医療体制が整っている。利用者の受診結果は家族に報告し、利用者の医療情報の共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に常に入居者の状況を報告し、又アドバイス等受け、入居者の適切な受診や看護支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と情報交換し、安心して治療できるように、又早期退院できるようカンファレンスなど実施。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向確認書と看取り介護の指針を十分に説明し、また重度化した時は、再度十分に確認をとって家族が悔いのないようし、地域の医療機関と関係者で連携をとる支援の取り組みをしている。	契約時に、重度化の指針を基にホームの方針を説明し、同意を得ている。利用者の重度化が進むと家族と密に連絡を取りながら、何度も確認を取り、主治医と交えて話し合い、関係者で方針を共有している。ホームで最期まで見て欲しいという家族からの要望があり、条件が整えば看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室内研修を行い、看護師の指導の下訓練を実施している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練実施(特に夜間想定で)と地元の消防団とも交流する機会をつくっている。運営推進会議の委員にも可能な限り参加頂き、意見も取り入れている。	防災訓練を年2回実施し、夜間想定を含め、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、近くに住む職員や地域住民との協力体制を確立している。利用者全員が安全に避難出来るように職員間で何度も話し合い、1ユニットであるが、夜勤者2名体制で取り組んでいる。災害時に備え、非常食、飲料水の準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシー提示し、周知に努めている。情報漏洩防止に全職員取り組んでいる。また、ここ状況を把握し人格を尊重し本人のプライドを傷つけないよう職員全員が対応できるよう努力している。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応等に取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や職員の守秘義務については、日頃から管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	書き物をされる為紙やボールペン等希望される。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは決めず、入居者の希望に沿い本人のペースに合わせるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日に何回も着替えをされている入居者や、御化粧等の希望もあり、できる限りの支援はしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえ、食後の片付け等入居者に無理のない程度手伝ってもらっている。	中庭の畑でトマトや胡瓜、茄子、オクラ等、季節の野菜を育て、収穫した野菜を取り入れて、職員が交代で作る美味しい料理を提供している。利用者の残存能力に合わせ、野菜の皮むきや下膳、茶碗ふき等の作業の手伝いをお願いし、頼りにされる事が利用者の生きがいに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小食の方、摂取に時間がかかる方、介助のいる方等個々の状況を全職員で把握・共有し、水分や食事量の記録をチェックしながら臨機応変に支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前の口腔ケア実施している。自力で出来ない方は職員が介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事やおやつ前など排泄の声掛け実施。また排泄中との外より声掛けし、失禁等のチェックを行っている。	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、利用者が重度化しても職員2人体制で、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間も出来るだけトイレに誘導したり、ポータブルトイレを使用する等、利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた食事・水分・牛乳・ヨーグルト・青汁など便秘の改善を試みる。腹部のマッサージ等必要時は行き、それでも改善されなければ主治医に相談し下剤を服用してもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定は決めず、入居者の体調や希望に沿って入浴を実施している。また便失禁等で汚す等あればすぐに入浴している。	利用者の希望や健康状態をチェックして、一人ひとりに合わせた入浴支援となっている。浴室のバリアフリーを整え、利用者が安全に入浴できる環境を整え、楽しい時間が過ごせるよう配慮している。また、入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声かけし、無理のない入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みんなと談話室で過ごす時間が多いが、その日の体調や様子を見守り、職員から声掛け行い自室でゆっくり休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が入居者の薬内容を把握し、体調に変化でお薬変更の時は申し送り時に伝え、必ず薬箱にメモをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や職種など様々な情報収集を行い、喜び・やる気を感じる事が出来るよう心身状態に合わせてレクや活動にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は老人会やディサービスの方と食事をしたりしていたが、現在はコロナ感染防止の為中止している。花見は、感染対策を行い行っています。暫く会っていないご家族の面会はガラス越しで電話で話すか、リモート面会になっている。	コロナ対策以前は春、秋には花見を行い、ホームの庭に出て花を眺めたり、摘んだりすることが利用者の楽しみになっている。同窓生の集まりに参加したり、家族と美容院や外出に出かける等、個別に出かけられるよう支援している。また、近隣の同法人のデイサービスの各種行事に参加していたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な入居者についてはGHで管理し、買い物の際本人に説明・同意を得て支援するように心がけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、可能な限り電話できるようにしている。また、個々に携帯電話を所持している入居者もいるので自由に使用し、着信等あれば声掛けし教えてあげるようにしている。手紙を出す方もいるので、ハガキ等購入してくるなど支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、室内は季節の物を飾りつけしている。行事の時はいつもと違ったメニューで食事を楽しんで頂いている。気候の変化がある時は、室温調整などに気を付けている。	民家を改築した木の温もりを感じる家庭的なホームである。季節の花を生け、鮮やかな緑の中庭を眺めながら、利用者が季節を五感で感じられる家庭的な環境である。屋内を季節毎に飾りつけ、ソファが置かれた共用空間では、利用者が思い思いの場所で寛ぐ姿が見られる。建物内は清掃が行き届き、室温や明るさにも配慮された居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を考慮し、席を配置している。一人ゆっくり過ごしたい方は、職員が声掛け移動、静かにのんびりと過ごしてもらっている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用して使い慣れた物を持ってきてもらったり、入居者が安全に過ごせるよう配置にも職員と本人と話し合い決めている。	利用者が大切にしている使い慣れた馴染みの家具や仏壇、家族の写真や小物類を持ち込んでもらい、利用者にとって居心地の良い居室になるよう配慮している。民家改造型のホームで、畳や障子のある部屋が多く、利用者は中庭を眺めながら、自宅と違和感のない落ち着いた環境の中で穏やかに過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間転倒防止の為、本人・家族と話し合いポータブルトイレ使用している方もいます。家具の配置も安全に過ごせるよう環境づくりを行っている。		